



タイヤ保管6つのポイント



①汚れからタイヤを守る！

保管する際に汚れが付着したままですと、どんな成分がゴムの劣化の元になるかわからないので、保管前はタイヤを洗浄してあげましょう。

②水分からタイヤを守る！

雨に打たれる場所や湿度の高い場所では、ゴムの劣化も早まり、タイヤ内部のスチールコードが劣化する原因になると聞きます。

③直射日光、高温となる場所は避ける！

タイヤは紫外線にさらしたり、高温の場所に長期間置いておくと、ひび割れなどの劣化が起こります。

カバーなどをかけて涼しい場所に保管する事が長持ちする秘訣です。

温度や湿度に関しては日本の一般的な気象条件レベルであれば特に問題は生じません。

④オゾンからタイヤを守る！

地球温暖化問題で「オゾンホール」などという単語が出てきて、大気の上層にオゾンが無いのは紫外線が増えて良くない、という話になっていますが、ことタイヤに関しては逆です。

バッテリーやモーターなどを使用する機器の近くでオゾンが発生しやすいことから、バッテリーとタイヤを並べて保管するような事は避けた方が良いでしょう。

⑤油からタイヤを守る！

ゴムは性質上、油との相性がよくありません。

タイヤワックスを使って、タイヤをピカピカにしている人もいます。見栄えはいいのですが、保管する時はふき取ってから保管するのが、タイヤにとって良いそうです。

油脂類が付着したままの保管はゴムの劣化の元ですから、しっかり拭き取ってから保管しましょう。

⑥タイヤを変形から守る！

・ホイールをはめた状態(リム組み)で保管する場合

重みでタイヤ接地面が変形することを避けるため、横積みをお奨めします。

その際は、空気圧を通常の半分程度に下げた方が良いでしょう。

・ホイールからはずしてタイヤを保管する場合

変形しやすいので原則として縦置きにして保管。

平積みをする際には、下になるタイヤの変形に十分注意しましょう。

※空気圧を抜く訳

乗用車用タイヤは指定空気圧を充填している場合、保管しているだけでも、

タイヤの中では外に押す力が常に1.5tもかかっています。

そこで保管時に空気圧を下げたことで、タイヤの負担を軽くし、劣化を軽減することができます。

◎保管場所の色移りに注意しよう

どこに保管される場合でも床置きの場合は、タイヤ内部の薬品による色移りを防ぐため、

厚手のダンボールやすのこなどを下に敷くと良いでしょう。

タイヤは無ければ走る事もできないとても重要なパーツです。

安全に保管してトラブルの少ない楽しいカーライフを目指しましょう！